

H30 研究の概要

研究主題

主体的に学び，豊かに表現できる子どもの育成

1 研究主題設定の理由

①児童の実態から

本校児童は，素朴で明るく，他を思いやる，あいさつのよい子が多い。また，行動は活発で自発性があり，多角的に追究し，解決しようとする意欲を学校生活全般から受け取ることができる。

しかし，児童の調査などからは，自己有用感が低い傾向があり，自分の欠点を直して良さを伸ばしたいという気持ちはあるものの，自分のよさについての自覚が薄いことも明らかになっている。保護者もまた，子どもに対して個性を伸ばすことについて十分ではないと感じ，さらに学校生活では，よりよい人間関係を築いて友達と仲よくしてほしいと強く願っている。

また学習面では，与えられた課題に前向きに取り組むが，前学年の既習事項を活用して考えること，自分の考えや理由を説明することが苦手な傾向にある。したがって，互いに話し合う活動において，自分の考えを友達に伝えたり，友達の考えを受けて自分の考えを広げたり加えたりして学びを深めていくことに課題があると考えている。

②昨年度の研究から

昨年度は，これらの実態や願いを受け，児童一人一人が自分のよさを生かし，さらには個性を伸ばして自分らしさを発揮しながら，調和のとれた自己形成が図れるように道徳や特活の時間の授業の実践研究を重ねてきた。その結果，相手を思いやった言動が増え，縦割り活動などでは，互いに仲良く活動を楽しむ姿が見られるようになってきている。これらの変容が次第に児童の道徳的実践力につながり，自信をもって主体的に行動できるよう，今年度も継続して研究を進める。

また，子ども一人一人が，分かった・できた喜びを実感できるように，全員参加の質の高い授業を目指して，各教科の特性を考えた授業研究を実践してきた。特に言語活動の充実に努めることで，問題解決するために必要な「思考力，判断力，表現力等」を育成し，知識や技能を幅広く活用していく能力が身に付くよう取り組んできた。また，課題となっていた考えの共有化部分に焦点を当て，「問い直し」による効果的な学び合いを生かした共有化の推進や，視点を与えた振り返りによって子どもが問い，子どもたちで問題解決する主体的な授業スタイルの確立を目指し，授業改善を図ってきた。その結果，子ども一人一人が学習課題を主体的に受け止めて，協働的に学習する姿や新たな問いを見つけ，解決しようとする姿が見られるようになってきている。しかし，児童や教師の実感とは別に，諸調査の結果では学力低下の傾向にあり，危惧されている。

そこで、今年度は、道徳や特別活動で個の自己有用感を高め、豊かな人間関係を構築し、よりよく生きる力を身に付けることで学習の基盤をつくることと、学びのユニバーサルデザインや主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を図り、「分かる・できる」喜びを実感させながら、思考力・判断力・表現力を育成していくことの二つの柱は継続し、内容の質的な改善を図りたいと考えている。

また、「目指す子どもの姿」を実現するために、PDCAサイクルを機能させ、組織的に校内研修を進めていきたい。

2 研究の重点

(1) 仮説

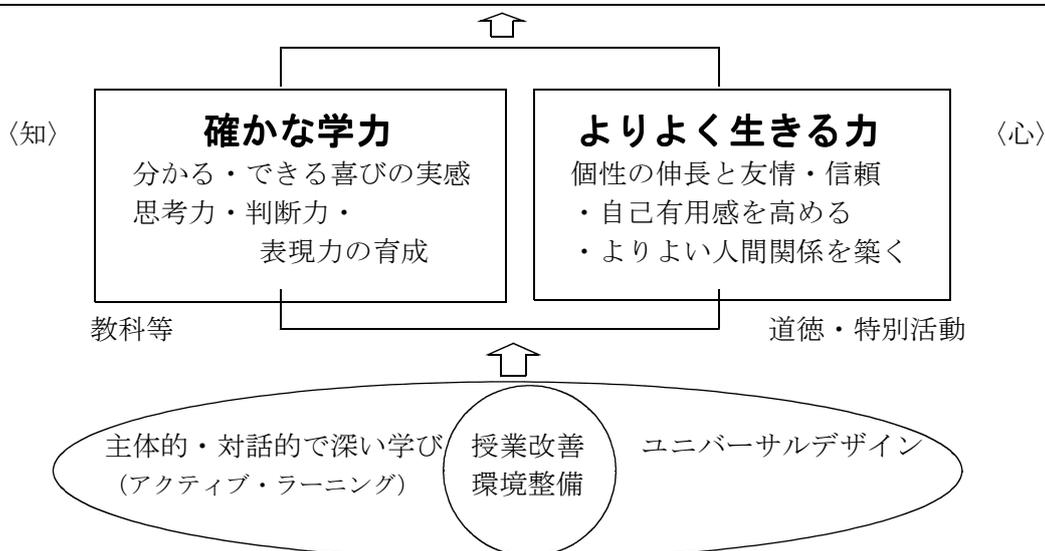
- ①主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）やユニバーサルデザインの視点からの授業改善を図りながら、課題意識のもたせ方を工夫し、話し合い活動を効果的に展開することで、主体的に学び、豊かに表現できる子どもを育成できるだろう。
- ②学習を支える基盤として、道徳や特別活動の時間を充実させることで、一人一人が自己を見つめ、他と学び合う心を育むことができるだろう。

(2) 目指す子どもの姿と共通実践事項

① 目指す子どもの姿

・自分の思いや考えを伝え合い、主体的・創造的に学び合うことができる子ども

・自分や相手のよさを認め合い、互いに助け合うことができる子ども



② 授業における共通実践事項

I 確かな学力の向上

○授業改善で「思考力・判断力・表現力」を育成する

(ユニバーサルデザインの視点からの授業改善) 授業の焦点化, 視覚化, 共有化

(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善) 主体的・対話的で深い学びの実現

①単元及び本時のねらいと身に付けたい力の明確化

「何ができるようになるか」

- ・年間指導計画の作成と見直し
- ・明確な課題やめあての設定

学習することでどんな力がつくのか, どうなればゴールなのか, ゴールの姿を見据えて, めあてを設定する

②課題意識の持たせ方の工夫

「主体的な学び」

- ・導入段階で, なぜ?, 知りたい, 考えたい, 解決したいという気持ちを明確にもたせる
(問いを発する子ども)
- ・ゴールの姿を見据えて, 子どもの言葉でめあてや学習課題を設定する
- ・解決の見通し

③話し合いの場や振り返りの場の充実

「対話的な学び」

- ・根拠をもとにした自分の考えをもった上で, 意見交換, 議論する (ペア, グループ)
- ・話し合いの内容や方向性を明確にする 【ひろげる】【くわえる】【しぼる】【つくる】
- ・聞く態度や姿勢の徹底
- ・話型の提示
- ・視点を与えた振り返りにより, 自分の学びの変容が自覚できるようにする 「深い学び」

④授業とリンクした, より主体的な家庭学習の充実

- ・Aドリルメニュー (基礎・基本) とBチャレンジメニュー (活用) の継続
- ・Bメニューを中心とした強調週間 (年4回) 担任以外の先生からのコメント
- ・ノートの紹介 (職員室前廊下や教室にコピーを掲示, 学年通信で発信,
学習公開日でのノート展示)

II よりよく生きる力の充実 (道徳で心を育み, 特活で形に)

○学習を支える基盤として, 一人一人が自己を見つめ, 他と学び合う心を育む

- ・互いの価値観を認め合える, 相手を尊重し合う学級集団づくり
学級活動で自己有用感を育む
- ・全教育活動に関わる道徳教育の実践と道徳の授業実践研究
別業による計画的な指導 考え・議論する道徳の時間
- ・子どもの変容の見取り 年間を通じて子どもの変容の記録を積み重ねる
道徳ファイル
- ・道徳コーナーの継続活用 学年部で道徳の時間や重点内容項目に関する紹介をする
心を形にして伝える環境づくり
- ・道徳配信
学年通信で学習シートの紹介, 全学級道徳の授業を公開 (12月のフリー参観日)